

LOVE in Letter 20

～輸血を受けた患者さんのメッセージ～

私は再生不良性貧血という血液が減っていく病気の患者です。

2年ほど前、長期で仕事を休み、無菌室に入り、様々な検査、AGTという治療、大量の薬、副作用、先が見えない現実、何もかもが突然の出来事、初めての事でとても不安な日々を過ごしました。

そんな中、人生で初めての輸血を受けることになりました。最初は他の人の血液が体内に入るということがとても怖かったです。しかし、いざ輸血が始まると、私は誰かのおかげで生きているんだ、自分ひとりでは生きていないんだということに気付き、自然と涙が出てきました。

それと 동시에、がんばって治療し、生きていかなければと思えるようになりました。完治する病気ではありませんが、献血をしてくれた方々のご厚意を忘れず今後も生きていきます。

献血に協力してくれた皆さま、今日は大切な時間、大切な血液をありがとうございました。